

KK通信

奇譚クラブ 第六卷 第十二号 附録
KK通信 (第三号) 毎月一日一回発行
発行人 吉田 稔 編集人 箕田京二
発行所 大阪府堺市区内菅原通四ノ三〇
書 房

へばさりの続篇(十一月号)四三、四四、四五各頁の記述や生き生きとした表現の感覚は何とも云えませんが「尻を持ち上げて眼の前でガムを体内にかくした」「夢中で舌を動かしてほくろを出す……」等、本当にウツトリとして、私も何とかしてその様な女の人から、その様な取扱いを受けて見たい熱望にかられました。又ストリップ変態記もたまらない感じで読ませて頂きました。私は蘭子が三好静二を最後に見舞った時の秘密な行動が全部発表されたらどんなにすばらしいだろうかと思つています。あの箇所の発表が本誌で駄目なものでしたらKK通信にでも、或は特別に秘密出版でもしていただけないか。とにかく私は奇譚クラブを毎晩床中に抱き寝して一晩に三度も四度もあの箇所を読んで恍惚の境に没入しています。若し斯様な方法によるサジをもつて私のマゾ的愛好趣味に同調して頂ける中年以上の御婦人がありましたら、御交際を願いたいと存じます。私は本年五十七才、三年前妻に死別、爾來獨身、身長五尺三寸五分体重十七貫職業は公務員です。

(横浜 芳沢生)

十一月号雑感

口繪について。これは原画にもよると思いますが、もう少し鮮明に出て欲しいと思ふものがあります。解説は大変参考になります。

読物について。男色物が相当頁をとっているようですが、そう云う傾向の読者が非常に多いことがその原因でしょう。時折り特集号を出して他の分野、たとえばマゾヒズム特集とか、サジズム特集といったようなものを考えてはどうでしょう。

挿画について。喜多鈴子氏の作品は強烈な虐待感がなく、その点物足りないとも云えますが軟い線から受ける悩ましい裸体の魅力はやはり貴重なものです。小説の内容によつてはもつと深刻味のあらわれた強い挿繪も欲しいと思いますが、どうでしょう。また挿繪のスペースももう少し大きい方が読者の感覚としては受けるのではないでしょう。六月号の口繪の戦争と性犯罪を描いたあの繪は素晴らしいと思ひました。もつと思ひ切つた構図で再びあのようなものを掲載してほしいと思ひます。

(福知山市、川真田生)

拝啓、小生は東京の国立大学(旧制……これを書けば御想像がつくでしょう)の学生であります。或日書店にて奇ク十月号を手に入れましたが甚だ興味深く感じました。まるで洪水の様に街に溢れている軟派雑誌は手に取る気もせず、まして金を以て購うなどは考えもしなかつたことでありましたが、この時だけは別でした。

小生は天性サディストに生れました。初めてONANIEを知つたのは九つ満八才位でした。うか、人並より早かつたと思われまふ。然し現在に至るも女を知つたことがない真面目な青年であります。しかし小生のオナニの際夢想するイメージは必ず全裸の女の責め場でありました。之は小生の幼児の時から一度の例外もない事実であります。夢想することに飽きると画を描くのです。

これも全裸の女の責め場、こうしたことが小生の小学校時代から続いています。その為には画の方は次第に我ながら稚拙の域を脱したらしく思われまふ喜多女史の画を見て、生れて初めて他人の描いた責め繪というのを見たわけです。そこで、いたづ

半分ですが小生の描いた画を数枚お見せしましょう。此の画はモデルを使つたことがない。純然たる想像画でありますから、その道の人が見たなら吹き出されることでしょう。何しろまだ生れてから一度も女の全裸体を見たことがないのでからその点御了承下さい。(ストリップは見たことがあります……)女の裸体を見たことも、抱いたこともない男が書いた「女の責め繪」として諸氏に御参考にする次第です。たゞ研究はしたことはあります。ヌード写真集、ストリップのアルバム、雑誌の挿繪、海水着美人の写真、その他女性の曲線を表わすものはすべて参考にして作り上げた責め繪ですが鈴子女史にも忌憚なき批判をたまわりたいと思つて居ります。(東京、杉田謙二)

△係より、杉田氏の繪は此の文と同時にKK通信に掲載する事になりましたが五枚共凸版の効果が悪くやむなく割愛致しました。

鈴子面帖を予約致しましたところ、十月一日附で限定番号四十八番をお送り下さいまして有難うございました。私の考へて居りましたものよりも素晴らしい出来て大いに喜んで居ります。

新らしい構想で第二集を発表されることの事なので御参考までに私の希望をお送りします。

①説明の文章をあの倍かそれとも三倍位にしていただけたら、もつと楽しめるのですが。

②出来得ることなら一つの題材で順を追つて場面が変つてゆく、と云うのは如何ですか。

③あの頰でこの様なことを望むのは無理ですが色刷にして戴けたら……。

④道具を使用したものもお願いします。

⑤是非とも今度は時代のもので……。

以上勝手なことを申述べましたが悪しからずおゆるし下さい。あの面帖の中で私の一番好きな繪はあの虫、それから土蔵の櫓責めでした。物干台に全裸で縛られているのは荒縄でなくて、腰紐のようなものの方がいいのではありませんか、そ

して胸だけでなく腰にも縄をかけて下さい失礼なことを申し上げましたが全体として鈴子面帖に期待していた私の気持は裏切られなかつたことを附記しておきます。(大阪東淀川、東)

責めに関する読者座談会を開催するとの事ですが、責めばかりでなく(奇譚クラブの作品を見せたいといひますと、いろいろなアブノーマルな点が見られます故)一般的な異色座談会でも次には開いて下さい。(東京、AA生)

○

前略、小生は本年三十六才の会社員です。幼時よりある原因に依つて男性を愛する傾向を有していたのですが、軍隊生活が(海軍でしたが)同性愛に一層の拍車をかけ、最近では男性に対する、責め、に興味を持つ様になりました。だが背徳的な斗争やヨタ者の喧嘩の様なことは嫌で、出来るならば気心の判つた青年を、同意の上でいぢめて見たいのです。裸体にして縛り上げておいて仲よく話したいと思つています。そんな意味で奇クの「男色の海」や「男色魔の虜」など好きでしたホモであつてサジストなのでしょうが、外面的には全然現われていないらしく、最も親しい友人でさえそんなことは気も付かぬ位なのです。東京の久乃木利夫さん、関西の青柳氏に一度お目にかかりたいと思つています。京都、大阪方面の同性愛者の客場及び其の顔ぶれ等は大体知つていますが一応其の人々に顔が売れてしまつてゐる現在ですので、それとは違つた意味で新しいパートナーが欲しいと思つています。因に小生は柔道二段観海流(水泳)初段、体重十七貫身長五尺六寸五分学歴は専卒です。(大阪北、庄司弘)

○

KK通信に対する御投稿を歓迎いたします。これは肩のこらない楽しい皆さま方だけの水いらずのグループです。御遠慮は御無用です。どんな内容でもいゝのです。お待ちします。(係)



地獄絵 (1)

行田和子

私はこの話をまだ誰にも話した事はありません
いえ話す勇気がなかったのです。

今でこそ、こうして尾になつていますが、五年
前迄はこんななるなど夢にも思わなかつたので
す。あの恐しい出来事で二人の娘を失つて以来、
こうして娘達の冥福を祈りつゝ人目をさけて世を
おくる私の恐しい過去、それに思ひ出す毎に新ら
しい恐怖の元となる地獄繪のような想い出がある
のです。

まだ私が娘の頃、二人の男性から熱心に求婚さ
れました。一人は安本重造、他の一人が亡つた夫
でした。もとくあまり評判がよくなかつた安本
は、私が結婚すると大層恨み、いろいろ嫌がら
せの手紙や行動をしまして、ますます気が荒く
なりその為強盗、強姦など云ういまいましい罪
を犯しまして其の頃はまだ日本のうちであつた朝
鮮へ逃亡してしまいました。

丁度其の頃朝鮮へ会社の都合で行つていた夫に
潜伏先を突き止められて捕えられた安本は、其の
後日本で刑を受けたのですが、それ以来彼の恐ろ
しい復讐を受けるまでは、彼の事は全然忘れ去つ
ていたのです。

私の幸福な結婚生活は夢の様に過ぎ、長女喬
子を生み、次女君子を得ました。

私からはからず、安本重造の恐ろしい復讐の為
に二人の可憐な娘達を、悪魔の淫らな犠牲にしな
ければならなかつたのは丁度今から五年前の或る

夜の事でした。

喬子は其の時二十才、君子は十八才になつてい
たのですが……。

数年前に病死した夫に代つて、美しく生長した
二人の娘を見守りつゝ私は女ばかりのつゝましい
生活にも喜びを感じて居りましたが、或る夜のこ
と、お友達の家に行くつゝ云つて家を出たまゝ、妹娘
の君子が十時を過ぎても帰つて来ないのです。

私と喬子とが帰りのおそい君子の事を心配して
駅まで迎えに行こうか、どうしようかと相談
していた矢先に、家の前に自動車の止る音がした
のです。君子が帰つて来たのだらうと玄関まで迎
えに立つた私の目の前にあわただしく駆け込んで
来たのは、その自動車の運転手でした。

「お宅のお嬢さんが、大怪我をなさいました！直
ぐ此の車に乗つて、行つてあげて下さい」いきなり、
こう云われて私も喬子も、もう前後を考えると
事も出来ないほど取り乱してしまつたのも、女の
浅さはかさだつたのでしよう。取るものもありあ
えず自動車の客席に飛び込んだ私を、助手らしい
男が抱え込むと見せかけていきなり、強烈な香りの
するハンカチーフを鼻口に覆つてしまつたので
す。

「あッ！ 麻酔薬！」と考える瞬間の驚ろきに思
をのんだ私は、頭がツーンと痺れて、運転手らし
い男に同じように抱きしめられながら白い布を嗅

がされてもがいている喬子の姿を眼底に残したま
ゝ意識を失つて行きました。

「榮子さん、ふつふつ、気が付いたらしいな、
どうだい、俺が判るかい、え、安本だよ」

あれからどの位時間が過ぎたのか、ぼんやりと
した意識がだん／＼元にもどつて来て、酒くさい
ダミ声で聞いた時には、何故ともなく淫らな怖ろ
しさに背筋がゾーンと冷えるのを感じました。

其処は八畳ほどのあるうかと思われるジメ／＼
した倉庫の様な部屋で、私のからだはその真中の
太い柱に後手に縛りつけられていました。そして
口には何か臭いにおいのする布で猿轡がはめら
れているのです。

意識を取りもどしたばかりの私には、何故こん
なひどい目に逢う理由があるのか直ぐには判らな
かつたのですが、やがて自分の前にニタ／＼と笑
つて酒を飲んでゐるのが、二十数年前罪を犯して
獄に入つたあの安本重造の、横しまな復讐に燃え
る姿であると判つた時の驚ろきはとうであつたで
しょう。

「フフツ、今夜のことを楽しみに、俺ア今日ま
で生きて来たんだぜ。俺ア今日まで……」

重造は酒臭い息を私の顔に吐きかけながら、黄
色い歯ぐきを見せていやらしく笑いました。

お前に裏切られた為に俺は地獄に陥ちた、だの
お前の夫の為に密告された恨みを晴らすのだ、此
の地下室は絶体一人が来ぬ場所だから、いくら泣
きわめいても駄目だ、など、そのほか聞くにた
えないいやらしい事をクド／＼と語り、手前勝手
な復讐の炎を燃やすのでしたが、私にはそれに対
して、そんな復讐を受ける訳の無いことを抗弁す
るにも、猿轡をはめられている為どうすることも
出来ないのです。

「お母さまーッ」

消え入る様な悲鳴が聞えたので、私はハツとし
て重造の肩越しに見えるドアに眼を向けました。
そして、三人の男に突つき廻されながら転がり込

んで来た喬子の姿を見た時、思わずくらくと眼
まいがして気が遠くなるほどの驚きに打たれて息
をのみました。

あゝ、何と云う事でしょう。喬子は一糸も纏わ
ぬ素つ裸体にされているのです。恥部を覆う布さ
えも許されず、必死に前か／＼みになつて部屋の中
へ突き込まれると太股を合わせて冷たい床の上に
うずくまつてしまいました。両手はむごたらしく
背後にねじ上げられて荒縄が蛇の様に乳房や上膊
に喰ひ込んでゐるのです。

「……」

声をのんで羞恥と恐怖に泣きぬれる喬子の姿を
眼のあたり見た時、母の私にはどれほど辛い責め
苦であつた事でしょう、若い娘盛りの喬子の死ぬ
ほどの羞しさがよく判るのですが、縛られてゐる
悲しさ、口惜しさ、私の着物の一枚でもその露わ
な腰を覆つてやることの出来ないもどかしさが、
猿轡の下で呻き声となつて自由の利かぬ身を悶え
ました。

そんな私達の苦悩をよそにやがて、大きな木製
の拷問椅子が運び込まれて来て喬子のもがきまわ
る両足は左右に開らかされて、此の椅子に縛り付
けられてしまつたのです。

「これからが面白んだぜ」と重造の声がいやら
しく聞えるのを私は眼をどろどろと懸命に祈りま
した。だがそれでも喬子の必死に助けを呼ぶ声は
私の耳に遠慮なく入つて来るのです。

「源、水を持て来い」

乾分にそう命じて持つて来させた水を重造は喬
子の口から無理矢理に飲ませるのです。私が堪え
かねて眼を開くと、真正面に喬子の椅子に縛られ
た姿が苦悶と羞恥に身動きも出来ぬ身を渡打たせ
ているのが見えました。

「お、お母さまーあ」泣きさげの喬子の口からは
間断なく水が過ぎ込まれ、その上重造の手が遠慮
のない悪戯をはじめたのです (以下次号)



喜多 玲子

責めと私

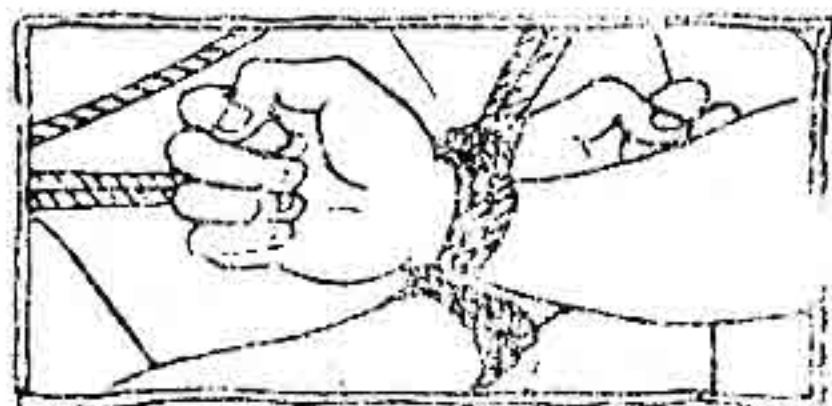
(前号よりの続き)

身軽な貪婪な悪魔たちの舌の攻撃を止めないばかりか、ますますあの小作りなクリクリした頭をグイグイとの付け根に押し進めて、私の発火点に火をつけます。私は呻き、悶えて、畳の上を転がり廻るのですが、手も足も自分で縛つてしまつてゐるのでその動き廻る限度もうんと制限されてゐるのです。

読者論壇

ベルギー現代

美術展を見て



先日、ベルギー現代美術展を見てベルギー画壇の第一人者、エドガー・ティトガットの繪を見ましたので同好諸士の何かのヒントにでもなればと思つて御報告します。他の画家がシュールなのに反し此の画家だけは、ロマンティックな丁度鈴木信太郎に似た画風で中々趣きがあります。

○生 費(水彩) 二、三人の女が衣服をはがれて縛られるまでの幻想的な画で、同じ画面に段階的にかゝれている、つまり一人の女が着服、脱衣、裸体、縛ると云つた省略法の商品

○女狩人(水彩) 数人の女狩人が馬に乗つて意気高々と帰つてくる。えものは驚かしき女。ブロンズの髪ふさふさと悲しげな眼を開き、不安におののいている、両腕は後手にひしひしと縛られている。衣はほどけ横向きに裸馬に乗せられて、太くまろやかな膝がむき出しに覗き、

私は自分ではめた猿轡の下でわけの判らぬことを呼びながら、固くなつた乳首を畳に摩りつけ、身をもむのです。あゝそれは何と云う恍惚感であつたことでしょうか、プルプルと細くふるふる膝頭足の裏は、火をふんだ様に熱く感じられ、全身は燃えたぎつた血潮が逆流する、あの虹を見る瞬間が近づくのです。あゝああ。

ところ、どころ赤い線が私の肌を色取つてゐるのは小さな悪魔が鋭い爪で引つかいたあとなのです、襖の模様かばやけ、天井が高くなり、そして下腹部も美しくのぞいてゐる。林の向うにはや

り女狩人に追立てられて逃げまどう女が描かれてゐる美しい画。

○最後の旅行 裸体の縛られた女が馬車で行く○最後の化粧 死刑の直前なのである一人の女は髪をとかれ、後から房々とした髪をとかして貰つてゐる。死化粧と云う所か。片方の椅子に椅子ごと後手にしつかりとくくり付けられた美しい娘が向うをむいてゐる、これも同じ運命であろう。何故か股を開けて椅子の足に両足をくくられてゐる。この後手に縛られた手の美しさはたとえようもない美しさである

○女同志の裁判、スパイの最後、女スパイ、生費、之等は皆修道女らしき者が赤はだかに剥かれた高慢なる女を椅子にかけさせ、好奇の眼を光らせて眺めてゐる。これから如何なることが行われるのであろうか、下腹部の草むらも割れ目もはつきりと描かれてゐる。首に針金の様なものを巻こうとしたり、後手に縛ろうとしてゐる。一体何を意味するのかわからない空想するのが面白い。

以上、大略の印象を書いて見ました。

(東京 黒井生)

悪魔の爪あとか私の臀部から大きな孤線を描いて七色の虹になつてゆくのです。……

もうこれ以上は申し上げないことに致します、前に申し上げた通り相手のない場合の一つの行為をお話して皆様の御参考にもなればと考へたまでですけれど……そして皆様のうちからいゝパートナールを得たかつたのですけれど、でもそれは玲子の我まゝな希望かも知れませんでした。

縛られたまゝの玲子はそれからどうなつたとおつしやるんですか。前号A図の中央を結んだ腰紐を引つづると(先の輪になつたところを柱に打ちつけた釘に引つけて)首をしめた縄が解けて手首に巻きつけた縄もとけるのです(おわり)

吊し責の三態

特選焼付写真 三枚一組
キヤビネ版 五百円

此れは今迄一度も発表した事のない、とつて置きの各種吊し責め姿態の中、最も興味あるものを選びました。御申込次第嚴重荷造の上意送致します。(代理部)

縛られた女の寫眞・分譲

光沢面 焼付五枚一組(二集分) 二百円
印刷紙

○第四篇(第三十一集より第四十集迄) 十集

○第五篇(第四十一集より第五十集迄) 十集

○第六篇(第五十一集より第六十集迄) 十集

◇以上各集共一集分各々五枚一組です。

集を追うて充実発展して参りました本誌独特の縛られた女の寫眞は、愛好者の間に大好評を博しまして、優秀なコレクションとしての役目を果たして参りましたが、猿轡や道具を用いたもの、鎖にて縛つたもの等を発表、その特異な緊迫美の雰囲気は、見る者をして恍惚境へ誘ひ込んで居りましたが、今回は更に読者待望の各種の吊り下げられた姿態の撮影を敢行、壓倒的な人気を得て参りました。

した。どうか、まだ御覧になつて居られない方や一部お求めの方は、分譲打ち切りにならない中にお早く御注文下さるようお願い致します。

襲われる女

(シリーズ十二態)
十二枚一組 五百円(送共)

此れは暴漢に襲われる女の恐怖の姿態を縄と鎖をアクセリーに用いた幻想的な作品です。

◎読者の告白文 体験談、性歴を募る◎

本誌をお読みになられる方々なれば、変つた経験の一つや二つはおありだと存じますが文章の巧拙等は問いませんから、御遠慮なくドシ／＼お寄せ下さい。会員諸士の分は優先的に掲載の上、薄謝を呈します。

原稿募集

新人発掘と読者と共に行く雑誌の性格を形作る為広く一般から募る一、すべて未発表の自作のものであること。
二、内容は本誌に適當するものであれば如何なるものでも又如何なる形式にても可。
三、発表の作品には相応の謝礼を差し上げます。(編集部)

本誌直接購読會員・募集

本誌を毎月確実な書店販売前に入手される為には直接購読會員におなり下さい。毎月KK通信(半ケ年実費百円)を無料贈呈の外、景品贈呈の特典があります。

景品	
三ヶ月分	(三冊) 送料共 一七〇円
半年分	(六冊) 送料共 五四〇円
一年分	(十二冊) 送料共 一〇八〇円
半年分	責められる女の寫眞三枚一組
一年分	責められる女の寫眞六枚一組
旧号二冊九十円(送共)	にてお送りします

眞 實 の 愛 情

小杉栄一・作

場所 四畳半又は六畳の和室

(客席は隣又周囲の部屋)

人物 O、押田君 (三十五才)

S、さち子 (二十三才)

A、跡山君 (二十五才)

(註)・セリフが長すぎれば、いつその事、パントマイムでやつてもよろしい素人の一、二回の練習でやれます。

A——ねえ、さち子、どうして早く決心がつかないんだ。あんな男と別れて早くボクと一緒になつてくれ。——

S——もうよして。愛してもいない男と一緒に暮すのには、辛い訳があります。貴男はそれを、知つていらつしやるのに。——

A——どんな義理があろうとも、さち子、君は、本ものでない日々を送つていてそれで生き甲斐があるのかい。愛していない男と毎夜暮すなんて、それはウソの生活だ。人間らしい生活はない生活だ。……ねえ、ボクと逃げよう？——

S——もう止しましょう。貴男には私の気持ちわらないワ (グイとウイスキーをのむ)

それより、ネ (と急に明るく)
今夜は変つた遊びをして見ない？ 貴男、強盗になつて私を縛るの。私がイヤがるのに無理に犯すのヨ。サ早く、私を縛つてヨ。——

A——フーン。—— (じつと見らる。女の肩が露わになつて乳房が見える。)

S——ねえン。早くよオ。—— (手を後に廻してウツトリと眼をとじる。男は美しい女の肩に静にキスするが縛らない。)

S——ねえ、どうして縛らないの。あたしが嫌いな

なの？——

A——きらいどころか、結婚しようと思つてゐるの気持ちを疑うのか。——

S——そんなら何故あたしの云う通りにしてくれないの、いじめて頂戴!! ねえ。——

A——……。いやだ愛している女を縛るなんてことは、僕には出来ない。それより……。—— 此の時、玄関の格子の開く音 (ベルの音)

Aはあわて、台所に隠れる。女は身すくろいして雑誌を開き先刻からの読んでいたふりをする

O。部屋に入つて来る。
O——オイ。帰つたぞ。—— (デロデロ見廻す)

S——あなた今夜は京都へ出張と云つてらしたじやないの。どうしたの。——

O——ウン。急に取止めになつてね。—— (フト女の首すじを見る。いきなり手をかけて肩を脱がせるAのキツスマークの跡。)

O——オイッ。これはなんだ。

(女は下を向く。男はカバンを落す。)

O——フン。そんなことだろうと思つた。俺の留守なのを知つて跡山が来たんだナ。ナニ隠したつて駄目だ。チキシヨウ。——

(男は女をにらみ何かうなずくそして押入から麻縄を出して来る。)

O——オイさち子。——

S——……。——

(男はいきなり女を蹴転がす双肌を脱がせてキリキリと後手に縛り上げてしまふ)

O——前からウスウス気付いてたんだ。よくも俺の顔に泥を塗つたナ。お前達母娘が路頭に迷つてた時、救つてやつたのは誰だつた？ 去年バアさんが病氣になつた時親身も及ばぬ手当をしてやつたのは誰だい？ え。バアさんは死ぬ時あれほど俺に感謝して泣いてたじやないか。その俺に対して、何をして呉れた。これだ！ チクシヨウ。——

(ビシリとバンドで打つ。半裸の女はうつつ之を抱き起して柱に縛りつける。又打つ。)

(ガバリと襖が開く。跡山出て来る。)

A——押田さん!!。何をするんです。余りじやありませんか。——

O——オッ。貴様ツ逃げたんじやなかつたのか。

—— (跡山は女に近づく。)

O——貴様よくもおめおめと顔を出せたな。——

A——え、僕はさち子さんを盗んだのは悪かつたと思つてます。し、しかし世界中で一番僕が彼女を愛してるんです。そ、それなのにあなたは毎晩。この人をに縛り上げ、いじめ抜くじやありませんか。それで、この人を愛していると云えますか。幸福にしていると云えますか。

—— (跡山、女の縄を解きにかゝる。押田はそれを止め遂に二人でなぐり合いになる)
S——よしてッ。よして頂戴!!。——

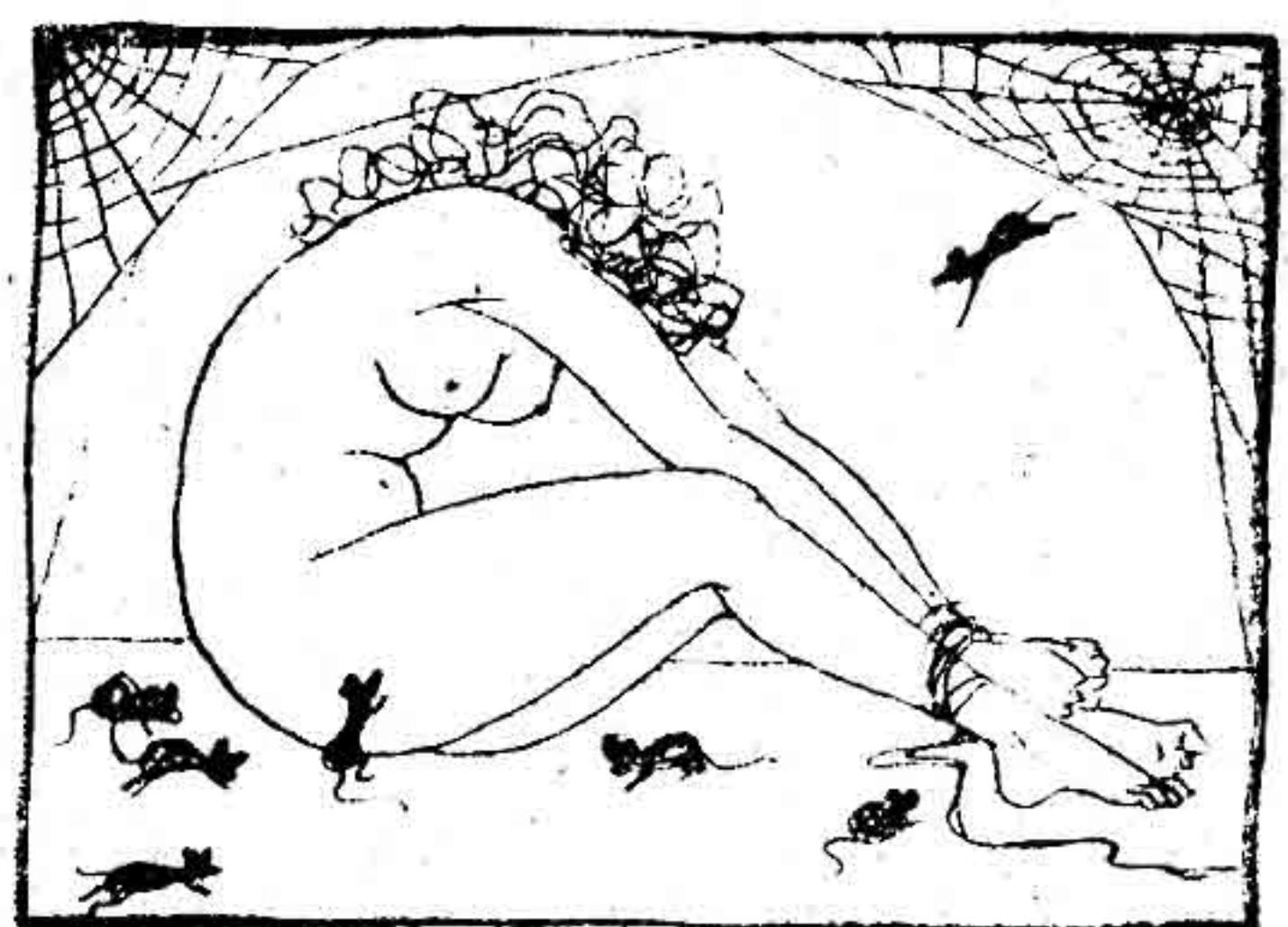
(女は柱に縛られたまゝ、身をもんで絶叫する跡山の一撃を顎に喰つて押田は其の場に伸びてしまふ。跡山、女の縄を解きにかゝるが柱の縄は解けたものゝ両手を縛つた縄が緊くてなかなかとけない。女はそのまゝ倒れている押田の所に転がつてゆく。)

S——あなたッ。しつかりしてッ。——

A——さち子、こんな男は放つておいて、早く二人で逃げよう。さ、早く。——

(跡山は女の手の縄を向も解こうとする。女はいきなり振り切る。)

S——さわらないでッ。あたしには今、やつと判つたのよ。あたしは此の人が好きなの、毎夜、裸にされて、虐げられながらあたしの肉体は、それを喜んでたのよ、心は貴男のものよ。でもあたしからだは此の人の愛情の表現からは離れられないの。このまゝにしといて。—— (女、押田にキスする) 跡山。無言、呆然と立ちつくす
—— 静かに。幕——



◎ 短 信 往 来 ◎
(ネヅミ責めの裸女)

☆KK通信第一号で、読者座談会の件を発表したところ、参加希望者が全国から殺到、中には会場には自邸を提供しようという申出も二、三あり、目下司会者辻村隆氏はその人選には嬉しい悲鳴をあげている。と、

☆喜多玲子さんがモデルを縛つてデッサンをとつてゐる所を撮影に行つた某写真部員が、余り濃厚なのに当てられて、さて、現像して見ると全部熱気のためにカブつてしまつて使いものにならなかつたとか、惜しい、惜しい。

☆先日、ひよつくり編集部へ姿を見せられた松井籟子さんは「私はやつぱり責めの小説を書いてゐる時が一番楽しい」と述懐 (同女史は他の筆名にて各大家誌に毎号執筆) 「どうか本名は出さないで下さいネ」と、同女史と逢いたいという人が多くて困つています。

☆本誌愛読者、某氏の御理解により縛つた男性のヌード写真を撮影、海老責、吊し責め其の他にその忍耐可能な限界等につき貴重な実験とネガとを得ることが出来た。

◎ 玲子画帖 ◎ 予約限定版満員締切

玲子画帖は大好評の裡に限定数に達しました。現在増刷分若干あり、御希望の方には一部荷造送料共三百六十円にて御送り致します。品切れになりました節は御容赦下さい。